

読者の声

163 秋号を読まれた方から、アンケートはがきで感想をいただきました。その一部をご紹介します。このコーナーに掲載された方には専大グッズを進呈いたします。

大学に入学してほとんど連絡もくれない娘。どうしているかと思っていた矢先に秋号に娘の写真が載っていました！ とても元気にしている娘の姿を見て嬉しく思いました。福岡（小倉）・Nさん

ゼミ・キャンパス通信、部・サークル活動など、一人でも多くの日常をお伝えすることも、使命と考えております。

私自身が卒業生であり、昔と今の違い、専修大学の時代ごとの流れを興味深く感じることができました。特集の座談会で読んだ1年生の境遇は忍びなく思います。私の娘も1年生なので案じています。愛知・Tさん

常に最新のキャンパス情報をお届けできるよう『ひらく支える Communication 育友』は、読者視線を大切にまいります。

特集を読み、（座談会の学生に比べ）息子はだらけているな…と正直不安になりました。息子も私も初めてのコロナ生活。部屋でパソコンに向かって本当に勉強しているのかは、息子任せなので私は真実はわかりません。他の学生さんほどのように過ごされているのでしょうか…。神奈川西・Iさん

コロナ禍、当たり前の学生生活を過ごせない日々。ご子息とキャンパスの情報共有にも是非『育友』をご活用ください。

特集「コロナの時代のキャンパスライフ」をじっくり読みました。特に学生の1日の流れが興味深かったです。自由時間の過ごし方も人それぞれですね。父母からの質問も納得のいくものでした。対面授業もある程度入れないと学生は課題ばかりに追われてしまうので、よいのか？と思ってしまう。めでたく箱根駅伝に出場が決まったので記事として取り上げてほしい。神奈川東・Yさん

今後も共感いただける特集をテーマにお伝えします。箱根駅伝特集をお読みいただき、ぜひ選手たちの熱い思いを感じてください。

子供からより、詳しい正確な情報を『育友』に頼っています。毎号楽しみに隅々まで読んで15冊が並びました。あと1冊に…。学校の周辺の写真も様子が窺えました。経営学部、間嶋先生のは原稿はコロナから経営の研究へと続き、わかりやすく読むことができました。いろいろなページで“コロナ”の文字がありましたが、今までの「当たり前」のありがたさ、上手な付き合い方、踏み出す勇気を見つけて、いつまでも立ち止まっていはいけないと、元気づけられる結び!! 頑張らなければ!! 福岡（博多）・Yさん

長年『育友』をご愛読頂き有難うございます。これからも皆様の知りたいを考えながら、企画・編集してまいります。